

平成 26 年度 自己評価表

鳥取県立米子白鳳高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 学業に取り組むための学ぶ意欲を育てる。 2 心の優しさを大切にし、他者と共存する力を育成する。 3 困難にも挑戦し、社会で自立して将来の夢の実現を目指す姿勢を育てる。	今年度の 重点目標	1 【豊かな人間性の育成】 思いやりの心を育て、人権について理解する力と尊重する態度の育成 2 【基礎学力の向上】 ユニバーサルデザインを意識した指導法の工夫による「わかりやすい授業」の実践 3 【進路指導の充実】 進路目標の早期決定による進路希望の実現 4 【地域貢献】 保護者・地域との連携・協力した学校づくりの推進
---------------------------	---	----------------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
【豊かな人間性の育成】	思いやりの心を育て、人権について理解する力と尊重する態度を育成する。	○挨拶、言葉づかいなど基本的な生活習慣が身につけていない。	○規範意識のある行動ができる。 (時間を守る・挨拶をする・相手を思いやる)	○「挨拶」「声かけ」「個人面談」等を通じて、生徒の基本的な生活習慣の確立に努める。 ○図書館やコモンホール等の共有部分の利用に注目して、ルールやマナーが身につくように粘り強く指導する。 ○TEASの基本方針に基づき、環境LHRや学校生活を通して、環境意識の改善を図る。			
		○特別支援を必要とする生徒の増加に伴い、SC、SSWer、白鳳サポーターとの連携による個別支援が必要である。	○個々の生徒実態にあった望ましい相談対応をすることができる。	○担任、校内分掌等と連携を密にし、情報交換を行い、問題の早期発見と個々の生徒に対応した支援に努める。 ○研修会等に積極的に参加し、研修を深めるとともに専門機関との連携に努める。			
		○クラスになじめない生徒がいる。	○良好な関係の仲間がいて、人間関係を原因とする欠席をなくすことができる。	○QU等を活用し、良好な仲間づくりと居心地の良いクラス運営に努める。			
【基礎学力の向上】	ユニバーサルデザインを意識した指導法の工夫により「わかりやすい授業」を実践する。	○基礎学力が不足し、学習する習慣が身につけていない。	○学習理解がすすみ、学習習慣が身につくことによって、授業を大切にすることができる。	○授業への参加を徹底し、チャイム順守・授業マナーなどきちんとした態度でのぞませ、毎日の授業を大切にすることを育てる。 ○教員間の連携を図り、自習がないように努める。			
		○学習の目的がはっきりせず、積極的に学習に取り組む姿勢が見られない。	○学ぶ目的を自覚し、生徒自らすすんで学習に取り組むことができる。	○授業アンケートなどを利用し、わかりやすい授業・魅力ある授業づくりに努める。 ○生徒の状況に対応した教材開発等を積極的に進める。			

年 度 当 初				評 価 結 果 () 月			
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
【進路指導の充実】	進路目標を早期に決定し、進路希望を実現する。	○進路選択に対する意識が、希薄である。	○自分の目指すべき進路目標を発見・理解し、納得のいく進路選択をすることができる。	○キャリア教育充実事業の実践的な講座の実施により、進路に対する意識づけと自分の適性にあった進路選択ができる力を身につける。 ○社会人講師を招き、社会人としての実践的なマナーの習得や職業理解を深め、幅広い進路選択ができる力を身につける。 ○産業社会と人間、LHR、総合的な学習の時間を利用して進路目標を持たせる。			
		○進路目標を実現するため、何に取り組めば良いのかわかっていない。	○進路実現のための段階的な内容を理解・習得し、進路希望を実現することができる。	○面接練習の強化やSPIの取り組みなどにより、卒業生全員の進路を確定させる。 ○キャリアアドバイザーを活用し、個人面談・指導等を通して、生徒個々の能力・適性を見極めた適切な進路指導を行う。 ○学年団と進路指導部の連携を図り、進路実現のための段階的な内容を進路LHRに取り入れる。			
【地域貢献】	保護者・地域と連携・協力した学校づくりを推進する。	○通学でよく利用するJR淀江駅の利用状況がよくない。また、通学路にゴミが落ちている状況である。	○公共施設を利用する上での心構えや美化活動の大切さを理解することができる。	○JR淀江駅の美化に努め、駅利用のマナーアップに努める。 ○通学路のポイ捨て撲滅に努め、地域美化活動に努める。 ○地域の取組と連携した環境保全活動を実施する。			
		○社会との関わりが薄く、異世代とのコミュニケーションの機会が少ない。	○地域の人々との交流を通して、異世代に対する理解と地域理解を深めることができる。	○地域の保育園児や高齢者との交流を通して、異世代とのコミュニケーションを図る。 ○地域の伝統芸能を授業を取り入れることにより、地域理解を深める。 ○積極的に地域へ情報発信をしていく。			

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]